

幼稚園の同窓會

南高輪幼稚園 甲 賀 ふ じ

かねてより幼稚園の同窓會を開き度いと願つて居りましたが、昨年米國から歸りました私の歡迎會を兼ねて第一回同窓會は開かれました。初代の卒業生達が多く集つて來て熱心に世話をして盛な會合を持ちました。此春はまた此度新たに當園の主任として鹽見先生を迎へましたので同氏の歡迎會を兼ねて去る二十三日午後一時から第二回同窓會を開きました。

會を開く一週間前十五日の土曜日には前回に選ばれた幹事達が數人當園で會合し諸般の打合せをなし會員一同に案内狀を出し其他の準備をいたしました。過去十年間に卒業した若い人達はもう、私から何もお世話やなくなつてもずん／＼自分達で事務を運んで行つて居るのを見て、私はもう其時から嬉し涙にくれました。

いよ／＼當日になりますと、午前八時といふに既に古い卒業生の數人は幼稚園の事務所でそれ／＼事務をとつて居ります、中には鎌倉から其時間迄に到着して何くれと世話をして呉れた人もありました。

中學生女學生小學生の三人兄弟で朝から學校行のお辨當持參で來て手傳つて呉てる人もありました。遊戲室には數列の長いテーブルが純白のテーブル掛で掩はれ美しい花で飾られて所狭きまでに竝べられ、大小の椅子百五六十人の座席は整ひました。定刻になると某中學の二年生になつて居るS君は立つて開會の辭として簡單に今日の會合の主意を述べました。次に鹽見先生を紹介し同先生が十年前、當園創立當時に園の爲に盡して下された事を話すと、同氏はなつかしうに創立當時の思ひ出を語られました。

『十二年のその昔丁度森村夫人が御自分のお子さん達を小學校と幼稚園とへ御出しにならうとして近所に適當なものを求めになりましたが得られなかつた、それでは私のだいいな花園を子供の園に致しませうとて御建てになつたのがそも／＼此園の起りなのです、今日はまるで大きな花小さい花の咲き揃つた満開の園の様だ、毎年毎年春毎に數々の美しい蕾が出來花が咲き今にどうぞ立派な果を結ぶ様

に、『といったやうな意味のお話で、其他園長や二三の先生方の御挨拶御感話があり、其後で第一回卒業生のW君は、懐しい幼稚園時代の追想を物語りました、彼は此春某中學校を卒業し美術に志して居る青年です彼の語つた一二の事を申してみませう。

(其頃丁度白瀬大尉の南極探險のあつた頃でしたので)

『今でもよく覚えて居ます僕等はよく南極探險に出かけたものです、僕等の南極は幼稚園とお隣の屋敷との境界になつて壁にそふて森の坂道をすんずん登つて行くことでした、日光の通らない森の中のことですから其處に入るといやにシーンと身にしみました、足元はジメ／＼して、ともすれば足を踏みはずしてすべりさうでした、出立前には各自吾一番に功名手柄を立てやうと大威張して麓までは先きを争てふ走つて行きながら、さて森にさしかゝると皆意氣地がなくなつて、誰も先頭に立つ者は無い、市川先生が先きに立つて下さると其あとを元氣を出して威勢よく森の坂道をわけ登り、行かれる處まで行つて歸るのです、歸つて來ると、一同はまた大威張り、南極で大蛇を見て來たとか、猛獸を見て來たとか自分達の想像範圍内でありたけの智慧をしぼつて大語

壯言して喜んだものです、吾々の南極探險は、忘れられない愉快な經驗でした。

畫洋紙でボートを送り蠟を塗つてお池へ浮して遊んだこと、お山へ行つてお辨當を喰べたこと、『今日のけいこもすみました』を歌つてお家へ歸るとごほうびにお菓子貰ふのが楽しみであつたこと、其時以來吾々を可愛がつて下さつた甲賀先生や市川先生や、今の鹽見先生其時同じクラスであつた誰れかれと、今日かうして此なつかしい遊戯室で楽しく相會すると又其昔があり／＼と見えるやうです』云々。私共までが其頃のことをはつきり見る様に昔が思ひ出されました。

其うちにお菓子が出たりお茶が出たり、お給仕役は小學校や女學校の會員たちでした。

餘興としては中學生W君兄弟のピアノ連弾。K君ハーマニカ、數番、小學校三年O君の一口ばなし小學校一年女生數人で動作つきの英語唱歌、中學一年のT君兄弟の佛語唱歌、M嬢のピアノ獨奏、L嬢のダンス其他小學生の邦語の唱歌、動作遊戯等、各思ひ／＼自分達の出来る事で此會合を愉快ならしむる様盡し合て居る様子は何でも云へず美しく見えました。此日集つた會員達は、小は此春四月に入學した小學一年

生より、大は、大學二年生迄の男女の學生を網羅して而も兄、姉、妹といった様な氣が漲つて居ました。

三時半頃一先づ會は閉ぢたけれども誰もなか／＼歸らうとはしない、大きな人達は後片付けの手傳をする、幼い人達は庭に出て遊ぶ、陳列した年々の寫眞を見てなつかしがる人もあり、自由畫綴り帳の中から自分の畫いた畫を見つけて喜んだり笑つたりして居る人もあつた。

大きな人達の仲間では斯様な會合を年に一度では足りない、秋にも一度開かうではないか、幼稚園の同窓會は吾々生涯の最樂しみな會合にしなければならぬと熱心に主張する人達もあつた、何と云ふ頼もしいこと、よろこばしい事だらうと、私共は本當に心から喜ばずには居られませんでした。

第一回卒業生の一人で其日都合があつて出席出来ずそれでも一寸だけ會の模様を見に来てすぐ歸つた一人の青年が後から次の様な手紙をよこしました、『如何に學校の都合、家事の都合上とはいへ、あの日出席し得なかつたのは如何にも残念で、また何とも申わけがございません、(中略)高輪の二年、幼稚園の六年、普通部の四年それから豫科を考へて見ますとずいぶん永い年月と思ひますけれど、其間で、

藤田先生のピアノでマーチしたこと、お湯で煮た様な(お砂糖が少ないので)苺の溺死した(お汁が澤山で)のを二つ食べたこと、(幼稚園の畑で出来た苺です)、南極探險などは、一番明かな忘れられない印象であります、この様な樂しい印象を持つた二百人のbrothers (僭越かも知れませんが私はかう呼びたく思ひます)の一人而も *our brothers* の一人となつてしまつた自分を見ると幸福の中にも、責任ともいふ様な一種の覺悟を持たないわけには參らなくなりま

す。先日も同窓會で遊戲室に一ぱい集つて居たかの幼い人達を見て一層此感を強めました、(下略)。

私は常に自分が幼稚園教師であり、幼兒の友であることを心から感謝して居ります、また今更に其感を深く強く致しました。當に私ばかりでなく當園の教師は一同に深く自分たちの使命に感激しました、同じ園で保育されたといふ縁りで結ばれた此同窓會を持つ吾園は誠に幸福だと思ひます。

(幼稚園の同窓會については今まで種々批評があつたり疑問に附せられたりして居りますが、皆様はどう御考へになるでせう、私共の持ちました二度の會合は實に天真爛漫な美しいものでございました)